

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371400900		
法人名	有限会社プラン		
事業所名	グループホームひまわり苑 1階		
所在地	名古屋市長区大高町字北平部1-76		
自己評価作成日	平成24年9月24日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2010_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371400900-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail%2010_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2371400900-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成24年12月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の意見などを尊重した介護をし、又家庭的な雰囲気の中で過ごしていただけるように努力している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの理念として、「家庭的な雰囲気の中で日常生活が送れる事」と掲げており、職員は、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切に支援している。具体的な取り組みとして、職員は、毎日の申し送りや月1回の会議で、利用者の思いや状態、職員の気付きについて話し合い、それらの情報を共有する事で、理念の内容の実現を目指しながら、利用者が笑顔で生活できるような支援を心掛けている。居間の窓からは、職員の支援により、手入れされた柿の木があり、その柿の木や四季折々の花を見る事ができ、柿の収穫時には、利用者が剥いた柿を皆で味わい、季節を感じる事が出来、利用者の楽しみにもなっている。また、一階のベランダや庭では、天気の良い時はベンチに腰掛けてのんびりと気分転換を行ったり、バーベキューを楽しむこともある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に施設の理念を貼りだし、職員全体で確認できる。	ホーム玄関に理念が掲示されており、ホーム長は申し送りやミーティングで周知しており、職員は、利用者一人ひとりが、その人らしく生活できるよう、理念を念頭に日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している、近隣のお祭りなどに見学に行っている、又散歩の際に挨拶を施設側から進んでしている。	ホームは、町内会に加入しており、回覧板を通じて町内会の行事を把握し、地域の祭りに利用者が出掛けたり、掃除に職員が参加している。また、中学生の職業体験の受け入れや、フランドンス、落語等のボランティアとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり機会がない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は二ヶ月に一回のペースで行っている、その際に地域の方の意見を取り入れて避難訓練など行った、	ホームでは、今年度より会議を年6回定期的に開催するよう取り組んでいる。会議では、ホームの状況報告や避難訓練、延命措置等について話し合っている。また、医師や薬剤師の参加があり医療面での情報交換に繋がっている。	現状、会議において家族の参加が少ない。今後、家族が参加できるよう体制を整え、意見を得て、ホームの運営に活かしていく事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者が居るため、区の職員と連携が取れていつ、又不明な点などにアドバイスして頂いている。	ホームには、生活保護の利用者が生活していることもあり、ホーム長は区の職員と情報交換に努めている。また、介護保険制度等で不明点について助言を求めたり、ホームの状況も伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体は理解しているが、やもえない時は家族に相談の上行うことが有ります、	ホームでは、身体拘束が安全上必要があれば、家族に説明し同意を得て対応している。また、申し送りの時に話し合ったり、月1回のミーティングの時にも身体拘束しないケアについて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉など常に注意して又意識して日々の介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その都度対応		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際に十分な説明をしている、又その都度聞かれることに対して対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱設置して、苦情が有る際は職員のミーティングにて話し合いをしている、改善していく	ホームでは、毎月、ホーム便りを発送しており、時には、ホームの行事の写真を一緒に送付している。また、年2回の家族会をクリスマス会等の行事に合わせ開催しており、家族間の交流する機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見を聞く、又ミーティングにて話し合い出来ることに対しては行う。	ホーム長、職員は、申し送りや毎月のミーティングにて話し合い、職員の意見が日々のケアに反映できるように努めている。また、代表者は、個人面談を給料明細を手渡す機会に設けており、要望等が出された際には、すぐに対応するように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度対応		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加できるように環境を整えている、又管理者より指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市東南部の交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にゆっくりと話し、本人の気持ちを汲み取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりと時間を取り質問・不安・心配事に対して聴き取り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話・本人の会話の中から見極めて支援していく、又その都度の状態に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であることを意識して友達感覚にならないように注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1年に2回の家族参加の行事を行っている、利用者との絆を持って頂く、又利用者の状態などを家族と話し合い、一緒に支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その都度対応	利用者は、家族、職員の支援により、馴染みのある床屋や喫茶店等に出掛けたり、ホームに訪ねてきた友人や知人と過ごすこともある。また、家族がホームに泊り、利用者で過ごす事も可能であることも伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクなどに参加し色々な交流をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際に家族に相談が有ればいつでも連絡下さいと言っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いを、表情・行動などで、受け止め、会話の中からも把握出来るように努めている、家族からの情報も頂き職員全体で共有している。	ホームでは、利用者の生活習慣等の情報を、センター方式も活用しながら職員間で情報の共有をはかっている。また、職員は、日々の関わりの中で利用者と話しながら、言葉・表情・動作から思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族のより、情報を頂く、入所時に情報用紙に細かく記入して頂くようお願いしている、又面会時にも情報を頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体で把握している、センター方式使用。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はセンター方式使用職員にて記入し計画作成と話し合い利用者に合ったケアプランを作成している。	ホームでは、担当者と計画作成者が中心になり、毎月のミーティングや申し送りで職員の意見を集めモニタリングを行っており、基本6か月毎に計画内容を見直している。また、利用者の状態変化時には、現状に合うように計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に記入している又何か有れば連絡用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は利用できているかは解っていないが、個々の希望での外出で外に行く、楽しく生活できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に連携の病院に情報提供し又入所検診をお願いしている、家族希望があれば、家族と相談の上支援している。	ホームでは、月1回協力医による往診があり、緊急の時は電話で指示を仰ぎ、職員支援により受診している。また、利用者、家族の希望で、歯科の往診や他科受診の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤が少ないため介護職員より情報提供している、又介護職員より連携病院に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と話し合い、こまめに状態報告などを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が生じた際は、医療機関と連携をはかり、家族と話し合い、その都度対応している。	ホーム長は、入居時、家族にホームの方針とケア内容を説明し、同意を得て対応している。ホームでは、看取りを行っていく方針を持っており、利用者の状態に合わせて、本人、家族の意向の確認しながら、医療機関と連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より指導、又救命救急の講習などを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の避難訓練を行い、職員連絡表や緊急連絡表掲示している。	ホームは、定期的に火災、地震や夜間を想定して避難訓練を実施しており、消防署からの指導助言を得ている。また、災害時通報機器の取り扱いや、地域住民も参加してのAED使用方法を学んでいる。また、備蓄品を3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録など個人の情報の場合はイニシャル記入し、情報は口外しないように徹底している。	ホームでは、申し送り時や、月1回のミーティングで接遇について話し合っている。職員は、利用者の自尊心を損ねる事のないよう、声掛けや対応に気を付け、一人ひとりを大切にしたい支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定にて希望に沿うようにしている、体調にも配慮して支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者にペースに合わせた介護を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みあり、個々にされている、出来ない利用者に対しては支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は食材配達で依頼、職員が調理、ホームで植えた野菜などを収穫して食べている、利用者は出来ることをして頂いている。	毎日のメニューと食材は業者に配達してもらい、ユニット毎の職員が食材の切り方や、メニューをアレンジしたりして利用者の好みに合わせるよう工夫している。利用者も配膳や片付け等、できる事に参加している。また、庭で採れた野菜を使って調理する時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にて栄養バランス計算されている、水分も必ず取って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にてされている人に関しては後で職員にてチェックしている、出来ない方に関しては職員に手支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・オムツ使用している方は、その都度対応、きれいな人に関しては徐々にはずしていく支援をしている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりに合わせてトイレへの案内を行っており、利用者の状態によって、紙おむつから紙パンツに改善した事例もある。また、夜間、ポータブルトイレを設置して、利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の訴えが、日々の記録で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は毎日の入浴、午前・午後に分けている、入浴剤なども使用し気分を変えている。	基本、入浴は2日に1度となっており、状態に合わせて、清拭を行い、清潔保持に努めている。さらに、入浴が楽しめるように、入浴剤を4種類ほど用意している。また、季節に合わせて、柚子湯を楽しみとしてとり入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にて好きなときに横になっている、さの際は職員よりこえかけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に飲まれている薬は職員が把握出来るようにファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が無理にするのではなく、進んで出来るようにこえかけしている、洗濯干し、洗濯たたみなど。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に連れて行く利用者を決めて外食や喫茶店に行く、又散歩などはその都度行く。	ホームは利用者の気分転換になることから、積極的に外出支援に取り組んでおり、利用者の希望に合わせた散歩や、桜の季節には、花見にも出掛けている。また、本人の希望があれば、個別で職員と一緒に買い物や食事等に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は家族と話し合い所持している、金額は多くはないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に連絡取りたいときは、職員にて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾りを変えている、居室に関しては個々の自由になっている。	リビングには、季節毎の風景写真や行事の写真を掲示したり、庭には花壇や畑があり、花を見たり野菜を収穫して、季節感を感じるようにしている。また、床暖房をしてあることで、温度差を感じないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みの空間有り座りながら会話している、ソファにてくつろぐ人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物はすべて利用者様が家で使用された物を持ってきて頂いている、又それぞれ工夫している。	ホームでは、利用者には馴染みの物を持ち込んでもらうよう、入居時に説明しており、実際に、仏壇を持ち込んでいたり、一人ひとりの生活習慣に合わせた、その人らしい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・フロアーなど広く手摺りなど有り歩行しやすくしている、トイレ居室は表札している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームひまわり苑

## 目標達成計画

作成日: 平成24 年 9 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員で利用者の担当だが、センター方式で理解している職員とまだの職員がいるため、これから強化できるようにしたい。	職員全体が理解してケアプランに移行できる。	研修を受けた職員が主になり勉強会などをミーティングで行う。	6ヶ月
2	33	重度化した際の介護力	重度かしても職員が対応できる。	介護に対しては研修や勉強会に参加、医療面は看護師により指導をしていく。	1年
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月